

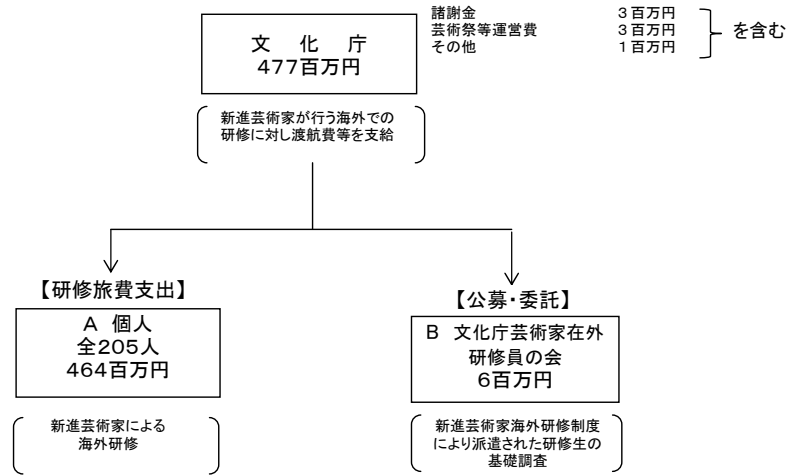
平成23年行政事業レビューシート

(文部科学省)

事業名		新進芸術家の海外研修		担当部局庁	文化庁		作成責任者		
事業開始・終了(予定)年度		平成14年度		担当課室	芸術文化課		芸術文化課長 山崎秀保		
会計区分		一般会計		施策名	XII-1 芸術文化の振興				
根拠法令 (具体的な条項も記載)		文化芸術振興基本法 第16条		関係する計画、通知等	文化芸術の振興に関する基本的な方針(第3次基本方針) (平成23年2月8日閣議決定)				
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)		新進芸術家の海外研修への支援、発表機会の確保を実施し、世界に羽ばたく新進芸術家を養成する。							
事業概要 (5行程度以内。別添可)		美術、音楽、舞踊、演劇等の各分野における新進芸術家の海外芸術団体や芸術家等への研修を支援することにより、実践的な研修の機会を提供。〔渡航費、滞在費等を支給〕(平成14年度開始)							
実施方法		<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 業務委託等 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 貸付 <input type="checkbox"/> その他							
予算額・執行額 (単位:百万円)				20年度	21年度	22年度	23年度	24年度要求	
		予算の状況	当初予算	676	662	564	438	438	
			補正予算	-	-	-	-	-	
			繰越し等	-	-	-	-	-	
		計		676	662	564	438	438	
		執行額		641	602	477			
執行率(%)		94.8%	90.9%	84.6%					
成果目標及び成果実績 (アウトカム)		成果指標			単位	20年度	21年度	22年度	目標値 (27年度)
		新進芸術家海外研修制度修了後の活動形態について、「現在も主たる仕事として活動している」または「専門分野と関連した仕事と並行して活動している」と回答した研修員の割合		成果実績	人				90%
				達成度	%				
活動指標及び活動実績 (アウトプット)		活動指標			単位	20年度	21年度	22年度	23年度活動見込
		新進芸術家海外研修制度における派遣者数		活動実績 (当初見込み)	人	154	109	94 (118)	- (62)
単位当たりコスト		5.07(百万円/1人あたり)		算出根拠	平成22年度実績額 477百万円/派遣者数 94人				
平成23・24年度予算内訳	費目	23年度当初予算	24年度要求	主な増減理由					
	諸謝金	2	2						
	職員旅費	1	1						
	委員等旅費	1	1						
	芸術家外国研修旅費	426	426						
	庁費	2	2						
	文化芸術振興委託費	6	6						
	計	438	438						

事業所管部局による点検			
	評価	項目	特記事項
目的・予算の状況	○	広く国民のニーズがあり、優先度が高い事業であるか。	
	○	国が実施すべき事業であるか。地方自治体、民間等に委ねるべき事業ではないか。	
	○	不用率が大きい場合は、その理由を把握しているか。	
資金の流れ、使途・費目	○	支出先の選定は妥当か。競争性が確保されているか。	
	○	単位あたりコストの削減に努めているか。その水準は妥当か。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	-	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	
活動実績、成果実績	○	他の手段と比較して実効性の高い手段となっているか。	成果目標については、平成22年度より測定が始まった指標である。
	-	適切な成果目標を立て、その達成度は着実に向上しているか。	
	○	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	
	-	類似の事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担となっているか	
	-	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	
点検結果	<p>新進芸術家等の研修制度については、芸術分野において国が実施することを強く実施を求められている事業であり、会計面においても適切に実施されている。なお、芸術分野において、本事業を実施する意義は非常に大きいことから、今後とも適切に事業を実施していく必要がある。</p>		
予算監視・効率化チームの所見			
一部改善		<p>1. 事業評価の観点：この事業は、新進芸術家の海外研修を支援する事業であり、長期継続事業の観点から検証を行った。 2. 所見：本事業は平成14年度から実施していることから、参加した芸術家の研修後のフォローアップ等を行い、事業の成果を検証し、引き続き、制度の在り方を含めさらに効果的な方策を検討することとし、より効率的な事業実施に努めるべきである。</p>	
上記の予算監視・効率化チームの所見を踏まえた改善点(概算要求における反映状況等)			
<p>平成23年度予算において派遣人数の見直しを行ったところであり、さらに平成24年度事業実施に当たっては、高校生海外研修実態調査に係る旅費について効率化を図ることとし、概算要求に▲0.1百万円反映した。</p>			
補記 (過去に事業仕分け・公開プロセス等の対象となっている場合はその結果も記載)			
<p>※事業仕分け(平成21年11月)評決結果：文化関係①芸術家の国際交流(新進芸術家の海外研修(上記①))は、予算要求の縮減 →対応：新規派遣者の減(1/4)</p>			

※平成22年度実績を記入



資金の流れ
(資金の受け取り先が何を
行っているか
について補足
する) (単
位: 百万円)

費目・使途 （「資金の流れ」 においてブロックごとに最大の金額が支出されている者について記載する。費目と使途の双方で実情が分かるように記載）	A. 個人A			E.		
	費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
	旅費	研修旅費	5			
	計		5	計		0
		B.文化庁芸術家在外研修員の会			F.	
	費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
	雑役務費	調査結果データ化に係る経費	3			
	人件費	調査実施に係る人件費	2			
	その他	旅費、通信運搬費、会議費、消耗品費	1			
	計		6	計		0

支出先上位10者リスト

A.

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	個人A	新進芸術家海外研修制度による研修の実施	5	—	—
2	個人B	新進芸術家海外研修制度による研修の実施	4	—	—
3	個人C	新進芸術家海外研修制度による研修の実施	4	—	—
4	個人D	新進芸術家海外研修制度による研修の実施	4	—	—
5	個人E	新進芸術家海外研修制度による研修の実施	4	—	—
6	個人F	新進芸術家海外研修制度による研修の実施	4	—	—
7	個人G	新進芸術家海外研修制度による研修の実施	4	—	—
8	個人H	新進芸術家海外研修制度による研修の実施	4	—	—
9	個人I	新進芸術家海外研修制度による研修の実施	4	—	—
10	個人J	新進芸術家海外研修制度による研修の実施	4	—	—

※公募により選考した研修員に必要な旅費及び滞在費の支給であるため「入札者数」「落札率」は「—」としている

B.

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	文化庁芸術家在外研修員の会	新進芸術家海外研修制度により派遣された研修生の基礎調査	6	企画競争	100